

# 中学校第2学年 英語科学習指導案

日 時 平成16年10月18日(月)4校時  
生 徒 北上市立和賀東中学校 2年A組  
男子17名 女子13名 計30名  
指導者 教諭 武藏 晃子

1 単元名 Unit 4 Homestay in the United States ---NEW HORIZON English Course 2

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、アメリカでのホームステイを話題・場面とする教材である。健がホームステイに行くにあたりガイドブックからアドバイスを得る場面、ホームステイ先でのベッドメイキングをめぐる健とホストマザーとの対話の場面、健と同じようにサマースクールに参加している生徒たちの相談と先生からのアドバイスの場面、という内容構成である。ここでは、ホームステイを扱いながら、コミュニケーションの基本的態度について考えることが出来る。

近年、自治体の主催で国際交流プログラムが企画されることが多くなり、生徒がホームステイを体験する機会が増加している。英語に対する苦手意識が少ないうちに出来るだけ多くの生徒に海外渡航を勧め、『勉強する英語』ではなく『コミュニケーションの手段としての英語』という意識を持たせたいと考えている。ホームステイへの抵抗感を減らすためにも、授業中に全生徒に対してホームステイの話題を提供するのはよい機会であり、取り上げるのにふさわしいと思われる。

本単元で扱う文法事項は、have to, will, must といった助動詞である。1年生で助動詞 can の用法については学習済みなので、その発展事項として導入したい。助動詞は文字通り動詞を助け、表現の幅を大きく広げられる文法事項である。また、一つ一つの意味がはっきりしているため、理解しやすい事項である。それゆえに、言語活動や自己表現活動の中で自ら使えるよう、発展的な活動を取り入れたい。

(2) 生徒観

男女共に明るく、素直でまじめな生徒が多く、その性格は授業態度にも生かされている。大部分の生徒は授業に積極的に取り組み、宿題もきちんとやってくる。1学期当初は、発言や質問が一部の生徒に偏る傾向があったが、最近では、あまり発言の多くなかった生徒にも積極性が見られるようになってきた。

これまでの学習では、ノートを整理し理解を深めることを中心におき、学習シートで基礎的・基本的事項の確認を行ってきた。そのため、文法や文構造についてきちんと整理して理解している生徒が多い。一方で、なかなか理解できていない生徒がいるのも事実である。しかし、英語の授業を楽しんでいる様子が見られるので、支援を続けながら英語学習へ向かう気持ちを励ましたい。

その他、既習ユニットを毎時間音読しており、声に出して英語を読む力がついてきている。

(3) 指導観

日常の授業では、聞くことについては、教師が意識的に英語で指示するようにしており、日常的に英語を理解しようという意識を付けさせようとしている。話すことについては、スピーチを行ったり、ALTが教室にいらっしやる時にオーセンティックな場面を設定した英会話を行ったりしている。読むことについては、それぞれが自分にあったレベルで英文を読むよう、出題に配慮し4つのレベルを用意している。書くことについては、自己表現活動に意欲的に取り組むので、ドリル練習の際にも取り入れるように心掛けている。

また、基礎的・基本的学習事項の定着のために、毎時間の最初5分間を利用し、基本文カードという取り組みを行なっている。生徒が楽しく競い合って取り組みながら、知らず知らずのうちに既習の基本文については条件反射のように日本語を英文にして言える生徒も出てき始め、この活動の有用性を感じている。この活動の発展として基本文を書けるレベルにまで高めるため、10月より

新しい活動も導入している。昼休みの休憩時間であるにもかかわらず、意欲的に受験に訪れ、ステッカーを増やしている生徒がいる。

本単元では、まず始めに can の復習を行ない助動詞の用法やその働きについて想起させ、新出助動詞の導入準備を行なう。このことにより、文法に関する負担を軽減することができると思われる。単元の前半部分では、have (has) to, will, must, must not の習得に重点をおき、中盤以降はそれらの助動詞を用い、4 時間目、5 時間目は読むこと、6 時間目は聞くこと、7 時間目は話すこと、8 時間目は書くことを中心とした活動へと発展させていく。

単元の前半部分において新出助動詞を学習する際、「have (has) to = must であるが don't (doesn't) have to = must not ではない」という点につまずきが予想される。そこで、日常生活の中で強制力をもつルール（守らなければ厳重な罰則がある）と強制力の弱いルール（それほど厳重な罰則がない = 約束ごと）を例として挙げ、どちらの表現が適切かを考えさせることで、その点を理解させたい。また、学力上位の生徒には、have (has) to と must 厳密な違いを理解するところまで求めたい。

読むことについて、2 年 A 組は音読が上手な学級なので、特に音読表現を豊かにし、音読を好きにさせたい、音読に自信を持たせたいと考えている。そこで、単語の発音の正確さのみに留まらず、イントネーション、センテンスアクセント、リンキング、脱略、間などにも注意させて、音読を進めたい。

聞くことについては、教科書の Listening Plus だけでは助動詞を用いた英文の理解を十分に図れないので、Farther Listening として聞く活動を増やしたい。また、ホームステイに関する情報を与え、ホームステイそのものについて、心構え、マナー等について理解させたい。

話すことについては、道案内というコミュニケーションな題材を通して、Could you ~?, will といった助動詞、及び口語的表現を学習させ、最終的には自分で設定した目的地までの道順を問答できるようにさせたい。

助動詞については、学力下位の生徒でも既習の can の理解度が高いため、その他の助動詞についても定着度が高いのではないかと考えられる。そこで、自己表現活動を取り入れ、書くことを中心とした発展的な学習を行ないたい。

### 3 単元の目標

#### 【コミュニケーションへの感心・意欲・態度】

初歩的英語を用いて自分のことを表現したり、情報を得たりする活動に積極的に取り組むことができる。

#### 【表現の能力】

さまざまな助動詞を用い、質問や応答を繰り返して対話をしたり、自己表現したりすることができる。

#### 【理解の能力】

さまざまな助動詞が用いられた英文を聞いたり読んだりして、その内容を理解することができる。

#### 【言語・文化に関する知識・理解】

さまざまな助動詞が用いられた文の意味、用法、構造を正しく理解することができる。

ホームステイについて、ホームステイに望む心構え、マナー等について正しく理解することができる。

### 4 単元・題材の指導計画と評価規準（本時の評価対象、評定につながる評価対象）

|        | 時 | 指導目標                          | 関心・意欲・態度 | 表現 | 理解 | 知識・理解   |
|--------|---|-------------------------------|----------|----|----|---|
| Unit 4 | 1 | have to の意味、用法を正確に理解することができる。 |          |    |    | have (has) to の意味、用法を正確に理解することができる。<br>(学習シート、定期考査) |

|      |  |   |   |  |  |
|------|--|---|---|--|--|
| 2    | will の意味、用法を正確に理解することができる。   |   |   |  | will の意味、用法を正確に理解することができる。<br>(学習シート、定期考査)                     |
| 3    | must, must not の意味、用法を正確に理解することができる。   |   |   |  | must, must not の意味、用法を正確に理解することができる。<br>(学習シート、定期考査)           |
| 4・本時 | p.40 で、Yuka の伝えたいことがはっきり伝わるように、正確に音読することができる。<br>(Reading)                                 |   | Yuka の伝えたいことがはっきり伝わるように、正確に音読することができる。<br>(机間巡視中の個別チェック、授業中)  | 「Yuka の悩み」と「それに対する先生のアドバイス」を正確に読み取ることができる。<br>(学習シート、定期考査) |  |
| 5    | p.41 で、Carlo の伝えたいことがはっきり伝わるように、正確に音読することができる。<br>(Reading)                                |   | Carlo の伝えたいことがはっきり伝わるように、正確に音読することができる。<br>(机間巡視中の個別チェック、授業中) | Carlo の苦情とそれに対する先生のアドバイスを正確に読み取ることができる。<br>(学習シート、定期考査)    |  |
| 6    | Listening Plus 4, Farther Listing を通じて、さまざまな助動詞が用いられた英文を聞き、その内容を理解することができる。<br>(Listening) | 必要な情報を得ようと、聞く活動に積極的に取り組むことができる。<br>(観察、授業中)     |   | さまざまな助動詞が用いられた英文を聞き、その内容を理解することができる。<br>(学習シート、定期考査)       | ホームステイについて、ホームステイに望む心構え、マナー等について正しく理解することができる。<br>(学習シート、定期考査) |
| 7    | Speaking Plus 2 で目的地への道順を適切な表現を用いて問答することができる。<br>(Speaking)                                | 積極的に英語を用いようとする態度で、話す活動に取り組むことができる。<br>(観察、授業中)  | 目的地への道順を適切な表現を用いて問答することができる。<br>(ペア発表、定期考査)                   |  |  |
| 8    | Unit 4 まとめの言語活動・自己表現活動<br>(Writing)  | 既習の助動詞を用いた総合的な言語活動に、積極的に取り組むことができる。<br>(観察、授業中) | 既習の助動詞を適切に使い、自分(達)のことについて書き表すことができる。<br>(学習シート、授業中)           |  |  |

## 5 本時の指導

### (1) 目標

- <表現> Yuka の伝えたいことがはっきり伝わるように音読することができる。
- <理解> Yuka の悩みとそれに対する先生のアドバイスを読み取ることができる。

(2) 本時の評価の観点と具体的評価規準

| 具体的評価規準             | A 充分満足できる                                     | B おおむね満足できる                                | C 努力を要する生徒への手だて                 |
|---------------------|---|--|---------------------------------|
| 評価の観点<br>表現の能力(展開9) | ・Yukaの伝えたいことがはっきり伝わるよう、適切な速さで正確に音読することができる。   | ・Yukaの伝えたいことがはっきり伝わるよう、正確に音読することができる。      | ・机間巡視による個別指導、既習の単語・表現の確認、時間的な配慮 |
| 理解の能力(展開7,10)       | ・「Yukaの悩み」と「それに対する先生のアドバイス」を英語で正確に読み取ることができる。 | ・「Yukaの悩み」と「それに対する先生のアドバイス」を正確に読み取ることができる。 | ・机間巡視による個別指導と励まし、学習シートの活用       |

(3) 本時の展開

| 階         | 学習内容        | 生徒の活動                   | 教師の支援                   | 留意点 評価   |   |
|-----------|-------------|-------------------------|-------------------------|--|---|
| 導入<br>5分  | 1 基本文カード    | 1 席が近い生徒と基本文カードから出題しあう  | 1 宿題のノートチェックをしながら机間巡視   | <ul style="list-style-type: none"> <li>基本文カード</li> <li>タイマー</li> </ul> |   |
|           | 2 あいさつ      | 2 英語で挨拶                 | 2 英語授業の雰囲気を作る           |  |   |
|           | 3 音読        | 3 Reading Plus 1以降を一斉音読 | 3 机間巡視                  |  |   |
|           | 4 前時の復習     | 4 must, must not を復習    | 4 前時学習事項を想起させる          |  |   |
| 展開<br>30分 | 5 学習課題の確認   | 5 学習シートに課題を記入           | 5 授業の狙いを明確にする           | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習シート配布</li> <li>FC</li> </ul>  |   |
|           | 6 新出語句の確認   | 6 新出語句の読み方、意味を確認する      | 6 FCを活用し、十分に口頭練習を行なう    |  |   |
|           | 7 読み取り      | 7 学習シートの読み取り問題に取り組む     | 7 机間巡視、学力下位の生徒の支援       |  | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習シート評価</li> </ul> |
|           | 8 重要表現の確認   | 8 重要表現を学習シートに記入         | 8 既習の文型や重要表現の意味と用法を確認する |  | 評価<表><br>Yukaの伝えたいことがはっきり伝わるように、正確に音読することができる。            |
|           | 9 音読        | 9 音読練習、一斉音読             | 9 意味を考えながら音読させる         |  |   |
|           | 10 内容理解の確認  | 10 T or F に取り組む         | 10 英語(音声)を用いた内容確認       |  |   |
| 終末<br>5分  | 11 学習シートの記入 | 11 自己評価を記入              | 11 学習活動について振り返らせる       | <ul style="list-style-type: none"> <li>学習シート</li> </ul>                |   |
|           | 12 次時の予告    | 12 次時の予告、宿題の確認          | 12 次時の予告し、宿題を指示する       |  |   |

